

発達障害検査入院プログラムのご案内

東大病院こころの発達診療部では、発達障害についてご本人や周囲の関係者が理解し、適切な対応や治療につなげるために、精神神経科の協力のもと、「発達障害検査入院プログラム」を実施しております。

検査入院プログラム開設の背景

近年、発達障害の概念が広まったことにより、発達障害の診断を希望する患者さんが増えてきました。しかしながら、発達障害の正確な診断には、発達歴の詳細な聴取や多角的な評価が不可欠であるため、多くの時間が必要となり、通常の診療の枠組みでは患者さんのご希望に十分応えられない現状があります。

一方、青年期・成人期の発達障害の方は、気分障害や不安障害などの二次障害を合併することが多く、それらの二次障害を主訴に来院するため、根底にある発達障害が見逃されたままドクターショッピングを繰り返しているケースも少なくありません。

プログラムの概要

<対象>

自閉症スペクトラム障害や注意欠如・多動性障害などの発達障害について精査が必要であり、ご本人が18歳以上かつプログラムの利用を希望している方。

なお、検査入院期間中に、ご本人の幼少期の養育者（父母等）に数日の来院協力をしていただく必要があります。協力を得られない方は対象外となりますので、ご注意ください。（ご来院いただく日数や日程は、プログラムのご利用が決定した段階で、ご案内させていただきます。）

<特徴>

- ・ 児童精神科医・臨床心理士からなる発達障害の専門家がチームとして担当し、様々な観点から評価をいたします
- ・ 診断結果をお伝えする際、発達障害の特徴や対応策などについて、個別に詳細な資料を作成してご説明し、お持ち帰りいただきます（作成資料は主治医の先生にも報告書とともにお渡しいたします）

<検査内容>

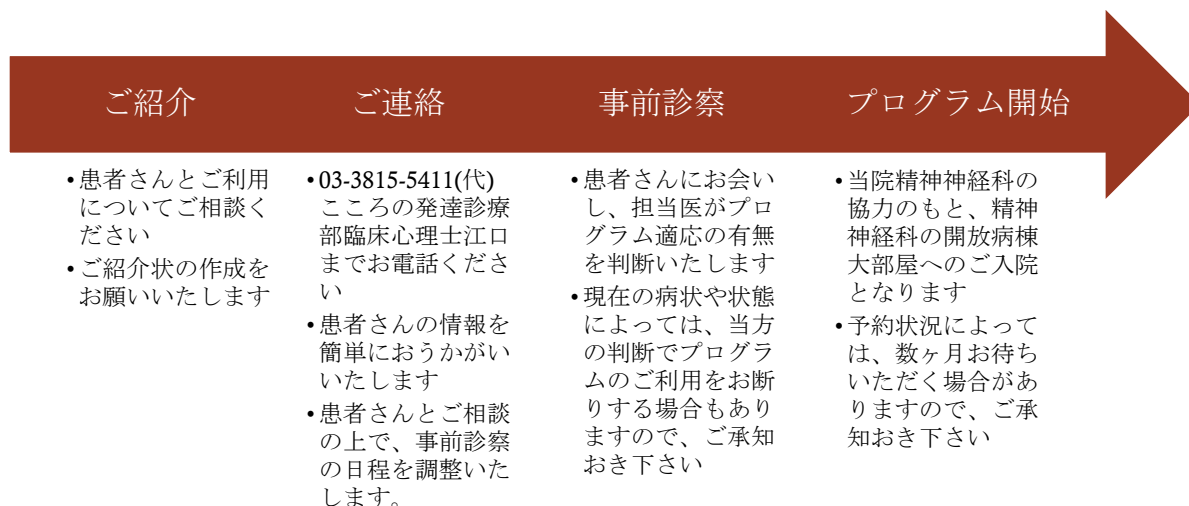
- ・ 発達歴についての構造化面接：幼少期の発達についてご家族から聴取します
- ・ 知的機能の評価：知能検査を用いて評価します
- ・ 認知機能の評価：複数の神経心理検査からバッテリーを組んで実施します
- ・ 精神症状について主観的な評価：複数の質問紙にご記入いただきます
- ・ 精神疾患についての構造化面接
- ・ 行動観察：自閉症スペクトラムの症状について評価します

<入院期間>

おおむね2週間



プログラム導入までの流れ



以下のような患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介をご検討ください

- 発達障害が疑われるが、診断確定までには至らず、治療方針の立案や環境調整の方向性に迷うケース
- 発達障害の診断を患者さん本人や家族が求めてきており、診断や告知内容の妥当性を詳細に検討したいケース
- 発達障害の患者さんで、今後の進路（進学・就職・転職など）の選択のために、障害特性に基づいた環境調整や福祉的資源の活用を検討していきたいが、どのようなものが適切か、詳細に検討したいケース
- 発達障害の患者さん、もしくは発達障害が疑われる患者さんで、今後の適応能力向上のための治療プログラム（CBT,SST,カウンセリングなど）の導入を検討したいが、どのようなプログラムが適切かを詳細に判断したいケース

以下のようなケースは残念ながらプログラムの適応となりません、ご了承ください

- 現在の状態像として緘黙や思考制止が強い等、言語でのやりとりに困難を来たしており、2週間の検査プログラム期間中に心理検査や診断のための面接の施行が難しいケース
- 状態が不安定で、入院中も薬物療法の調整が必要なケース、あるいは薬物調整も含めて入院加療をご依頼いただくケース

(当院精神神経科の通常入院枠へのご紹介などをご検討下さい。)

ご検討いただき、ご紹介のほど、よろしくお願い申し上げます。

東京大学医学部附属病院ころの発達診療部
03-3815-5411 (代表) 臨床心理士 江口